

## 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市芸術創造村・国際青少年センター		
管理者名	環境をサポートする株式会社きらめき	指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日
担当課	教育委員会地域教育推進課 ・ 文化スポーツ部文化政策課		
所在地	新潟市中央区二葉町2丁目5932番地7		
根拠法令			
設置条例	新潟市芸術創造村・国際青少年センター条例		
施設概要	敷地面積：10,633.07㎡ 延床面積：校舎棟 4,137.59㎡ 旧体育館棟 2,040.80㎡ ELV棟 38.12㎡ 野外炊事場147.42㎡ 構造・階高：校舎棟 鉄筋コンクリート造4階建て 体育館棟 鉄筋コンクリート造2階建て ELV棟 鉄骨造4階建て 野外炊事場 鉄骨造平屋建て 主な施設内容：1階 工房・ギャラリー・休憩室×2部屋(各128㎡)、ラウンジ(178.4㎡) 2階 クリエイティブスタジオ(94.7㎡)、クリエイティブルーム×2部屋(94.7㎡、96㎡)、コミュニティスペース(146.2㎡)、水と土の文化ギャラリー(96㎡)、ワークショップルーム×2部屋(各32㎡)、和室(32㎡) 3、4階 研修室×16部屋(各32㎡)、指導員室×2部屋(各33㎡)、多目的スペース×2部屋(各128㎡)、談話室×2(各64㎡)、調理室(128㎡)、音楽室(94.7㎡) 体育館棟 体育館(1,213.6㎡)、軽運動場(318.7㎡)、浴室・脱衣所×2(109.8㎡) 屋外 屋外炊事場(147.4㎡)		

施設設置目的
文化芸術活動の支援、青少年の体験活動及び国際交流活動の支援並びに文化芸術活動を行う者、青少年及び市民相互の交流の推進をすることで、文化芸術の魅力の発信及び創出並びに次代を担う心豊かな青少年の育成をし、もって市民の豊かな生活の実現に資することを目的とする。
管理・運営に関する基本理念、方針等
1 施設の基本理念 市民と行政が一体となり、青少年健全育成と文化芸術活動にかかる様々なプログラムの展開と支援・交流のための施設を整備することにより、感性を磨き心豊かな子どもの育成及び次世代を担うアーティスト・クリエイターの育成を図る。 2 事業の運営方針 ①家庭や学校とは異なる場所で、様々な活動を体験することにより、次代を担う「心豊かな子どもを育てる」ことを目的とした施設とする。 ②国内外を問わず、アーティストやクリエイターの創作活動の支援及び青少年等との交流、市内文化施設等との連携を図り本市独自の文化芸術の魅力発信を担う。 ③市民交流及び市民力・地域力による青少年健全育成と文化芸術の創出を図る。 3 施設の管理運営方針 ①委託業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。 ②施設の設置の目的を踏まえて、機能及び役割を果たすとともに、各機能が有機的に連携し、相互に補完しあいながら一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、積極的に努力する。 ③施設の業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、多岐にわたる業務を総合的な調整を行い、相互連携を保ち、適切に進捗管理を行い実施する。 ④施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指す。 ⑤業務の実施にあたって、市の職員と密接な連絡をとり、施設の目的の達成を図るものとし、その実施状況を記録する。

令和4年度

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市民	施設利用者数	施設利用者数 年間70,000人以上	110,757人	A	感染症対策を行いながら、創意工夫により多様な事業を展開し、目標を大幅に上回ったことは高く評価できる。
	施設稼働率	年間50%以上	46.4%	C	利用者数の増加はみられるものの、施設稼働率としては目標を達成できなかった。より一層の改善に励まれ、指標の達成を望む。
	広報の充実	広報計画の策定及び計画に基づいた広報の実施	計画通り実施	B	
	事業の実施(文化芸術)	滞在制作する芸術家等 年間8組	8組	B	
	事業の実施(青少年)	青少年健全育成事業 年間6回以上	18回	A	利用者数が増加していることから、目標以上の事業回数を重ねることで魅力的な事業として浸透していることが見受けられる。
	各種サービス別満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	90.6%	B	
	苦情・要望への対応	苦情・要望には原則5営業日以内に対応	5営業日以内に対応	B	
財 務	適正な財政運営	収入計画に基づく収入の確保及び経費の執行	適正な財政運営に努めたが、光熱費高騰の影響を受け、支出が大幅に上回ってしまった	B	
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支の適切な記録	作成及び記録済み	B	
業 務	安全責任者の配置と安全確保体制の確立	・防災訓練の実施年2回以上実施 ・マニュアル作成	年2回実施	B	
	事件、事故発生時の対応の適切さ	発生後の速やかな市への報告及び再発防止策の策定	発生後の報告徹底及び必要に応じて注意喚起を実施	B	
	コンプライアンス	コンプライアンス研修の実施 1人あたり年1回以上	年1回実施	B	
	業務仕様に定める事項の遵守	その他の業務仕様書等に定める事項の遵守	遵守	B	
人 材	職員研修の実施	内部・外部実務研修の実施 1人あたり年2回以上	一人2回以上実施	B	
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	遵守	B	

【評価基準】

A: 要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている

B: 要求水準(評価指標)が達成されている

C: 要求水準(評価指標)が達成されていない

※評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。(評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていなければ「A評価」とはなりませんので、ご注意ください)

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

今期もコロナ禍の運営ではあったが、徐々に規制が緩和され1年を通して開館することができ、主催、自主事業共に全て計画どおり実施した。それらにより利用実績は過去最高となり目標を達成するとともに、開館以来5年で延べ10万人を達成することができた。AIR事業においても、渡航制限等の緩和に伴い外国からの作家も滞在できるようになり、予定通り8組で実施した。また、R4年度の新規事業として、こども食堂を2回実施した。対象者は全ての年代の方とし、その時期のAIRの滞在家に関連した料理の提供と市民交流や、カブラ、けん玉体験などを盛り込み、ゆいぽーとらしさを演出することができた。稼働率は、46.4%で前年度並みとなり評価指標50%に達することはできなかった。前年対比では稼働施設21か所の内2/3は稼働が上がり、見通しとしては期待のもてる傾向だが、半数の施設が30%未満の稼働にとどまっていることが課題である。改善策としては、市の事業利用促進や希望の部屋が予約できない場合に他の予約可能日や他の空室を勧める等代替案の提示に加え、団体へ新たな利用の提案や大学と連携したAIR事業などを新規に計画している。

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 ( 所 見 )

現地調査日: 令和5年4月28日  
引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの施設運営であったが、年間施設利用者数は10万人を超え、目標を大きく上回ったことは高く評価できる。今後も市民が文化芸術に親しみ、また青少年の探求心を育む事業を展開していくことを期待する。一方、施設稼働率は依然として目標を達成することはできなかった。利用促進に向けて市民のニーズ等を把握し、積極的に広報を行うなど、稼働率向上に向けた改善を図っていただきたい。